

## 米国大学図書館における電子書籍サービス

グッド長橋広行，グッド和代\*

米国では電子資料の増加にともない大学図書館の役割が、蔵書構築から学習スペースの提供や更なる学習支援に転換してきている。私たちは電子書籍の増加が図書館サービスの転換を促し、利用者支援を向上させると期待してきた。しかしここ数年の電子書籍を取巻く環境は、私たちが予想していたものとは違うようだ。学生はいまだ紙書籍を好み、電子書籍の読み辛さは改善されず、大学図書館の電子書籍購入予算は減少している。本稿ではその問題と原因を2つの最新の全米調査報告書から探り、大学図書館で電子書籍サービスを支える職員たちの取り組みを報告する。最後に日本語電子書籍への要望を添える。

キーワード：電子書籍サービス，電子書籍の利用，電子書籍，電子資料，米国，大学図書館，図書館利用調査，学生利用調査，教員利用調査

### 1. はじめに

米国では電子資料の増加にともない大学図書館の役割が、ここ数年著しく変わってきている。学生たちへの学習スペース提供と学部生への学習支援が図書館の大きな役割となり、ピッツバーグ大学図書館でも書架を大幅に減らし本と雑誌をどんどん倉庫へ送っている。

場所を取らない電子書籍は図書館にとってありがたい存在であり、DDA (Demand Driven Acquisition, または PDA = Patron Driven Acquisition, アクセス後に購読料を支払う方法) の導入により選書にかかる時間が減らせて、リエゾン・ライブラリンたちは学習支援に力を注ぐことが出来る。本を借りて図書館まで行く必要もなく、たくさんの重たい本をナップザックに入れて持ち歩く必要もなくなり、全文検索で必要な箇所をすぐに見つけることが出来るから、学生たちが課題論文を書く効率も向上する。良い事づくめの電子書籍のようだが、最近の利用者調査を見ても、ここ2, 3年、電子書籍の利用者満足度も、図書館の電子書籍購入量も横這いまたは低下傾向が報告されている。そこで本稿では2015年と2016年に行われた2つの利用調査から、学生と教員の電子書籍の利用傾向を見てみる。その上で、電子書籍の購入によって図書館員たちの仕事はどう変わったか、そして日本の電子書籍への要望を付け加えておきたい。

### 2. 利用調査から見た最近の電子書籍の利用傾向

本稿で参考とする利用調査は、Library Journal (LJ) が2016年に行った「米国大学図書館における電子書籍の

利用2016」<sup>1)</sup>と「Ithaca S+R 米国大学教員調査2015」<sup>2)</sup>である。

#### 2.1 大学図書館の現場から見た学生の電子書籍利用傾向

LJの調査は、2016年4月1日から5月3日までの約1カ月間、LJのニューズレター購読者あてに電子メールで呼びかけて実施された。346館の大学図書館から回答があり、その内訳は、大学院のある大学やプロフェッショナル・スクールの図書館(法学図書館や医学図書館など)が29%、学部生向けまたは4年制大学の図書館が45%、コミュニティ・カレッジまたは2年制大学の図書館が26%であった。回答者の内訳は、館長/副館長24%、リファレンス/情報サービス担当24%、電子資料担当12%が全体の6割。そして残りの回答者は様々な職場の図書館員たちである。所属を並べてみると、総務部長、総務課長、蔵書構築/選書担当、テクニカルサービス/IT担当、アキュジション担当、カタログ、貸出し担当、システム担当、インストラクション担当と幅広く、日常業務で電子書籍コレクションにたずさわる図書館員の職域が広がっている実態が見える<sup>3)</sup>。LJ調査は、図書館の現場から見た電子書籍の動向が中心であるが、利用者から受けた質問、館内での学生行動から得た電子書籍の利用傾向や不満の声も併せて報告しているので参考にしたい。

#### 2.2 参考図書は圧倒的に電子書籍、その他は使い分け

LJ報告の冒頭には、大学図書館での電子書籍の利用傾向がつかないように報告されている。「今回の調査での大きな発見は、紙書籍がいまでも学生や教員に好まれているということであろう。図書館としては大量の電子書籍を提供しているのだが、電子書籍が紙書籍より多く利用されているのは参考図書だけで、司書たちが期待するほど利用者たちは電子書籍を使っていないのが現実だ」と述べている<sup>4)</sup>。

さらにLJは利用者に好まれている電子書籍と紙書籍のジャンルについて報告している。参考図書は、電子書籍

\*グッド ながはし ひろゆき, グッド かずよ ピッツバーグ大学図書館

University of Pittsburgh, 207H Hillman Library  
3960 Forbes Ave., Pittsburgh, PA 15260

E-mail: hng2@pitt.edu (原稿受領 2016.10.24)

56%に対し紙書籍 16%なのだが、教科書になると電子書籍 31%に対し紙書籍 42%と逆転。学術資料では紙書籍が根強く 47%も支持されている。

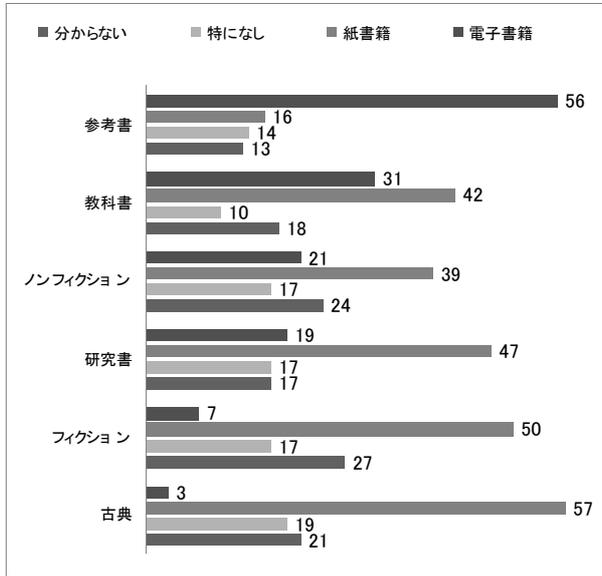


図1 学生が好むジャンルの電子書籍と紙書籍の比較<sup>5)</sup>

図書館員たちのコメントによると「学生たちは章や一部だけを読む場合は電子書籍を好むので、このレベルのアクセスを提供している販売会社を好む。一方全部を読むには紙書籍の方がいいようだ」「研究テーマの書誌情報を集める際には電子書籍を好むようだ」と観察している。

### 2.3 電子書籍利用を妨げる要因は？

右の図2は、何が電子書籍コレクションの利用の妨げになっていると思うか、という質問への回答で、2016年と2012年のLJ調査を比較している。15の選択肢を示し、該当する内容はいくつでも選んでもらった結果、2016年のトップ回答は「紙書籍のほうを好むから60%」になった。2012年の調査では50%だ。さかのぼって2010年に行った同様の調査では40%が「紙書籍のほうを好むから」と答えている。

さてLJ調査では「(学生たちは)電子書籍の存在を知らない」という回答が56%とかなり多い。この回答は2012年の52%よりわずかに上昇しているが、2010年には62%だったそうだ。この回答には、コミュニティ・カレッジの利用者傾向が影響しているとLJは指摘している。コミュニティ・カレッジの図書館員が「(学生たちは)電子書籍の存在を知らない70%」「紙書籍のほうを好むから68%」と回答しているのだ。

### 2.4 なぜ紙書籍は依然として人気があるのか？

LJ調査による紙書籍への志向をどう見るか難しいところだが、電子書籍が大量にオンライン・カタログで提供されるようになり試してみたが、いろいろ面倒で使いづらいという反動ではないだろうか。「印刷制限があるから電子書

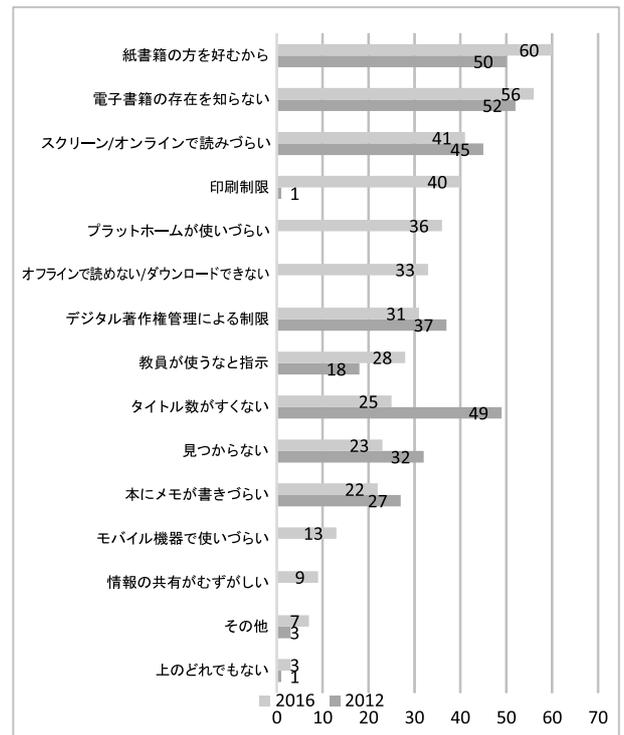


図2 学生と教員の電子書籍を嫌う理由<sup>6)</sup>

籍を好まない」という回答が、2012年の1%から2016年は40%に飛躍的に増加したことは、その表れだろう。2016年の回答には使いにくさについての指摘が目立つ。「プラットフォームが使いづらい」「オフラインで読めない/ダウンロードできない」「モバイル機器が使いづらい」「情報の共有がむずかしい」の回答数も多い。「スクリーンやオンラインで読みづらい41%」というのも、2012年の45%からわずかに減っただけでまだ大きな問題だ。

試しにiPhone 6 PlusでNetLibraryにアクセスしてみたら、日本語も英語の電子書籍も、書誌情報は見られたが、本文は読めず、コンピュータで読むために検索結果をメールする機能がついていた。届いたメールをコンピュータで開き、メールに含まれたリンクをクリックしたが、残念ながらEBSCOHostのログイン・ページに繋がってしまい、本文は読めなかった。ここまで面倒だと、学生たちは電子書籍を使うのをいやになってしまうことだろう。

図書館ウェブサイトから検索した電子ジャーナルの論文や電子書籍は、学内外に関わらず、スムーズに本文にアクセスできるようになっているが、モバイル機器での検索結果からメールで送ったリンクは、自動的にリモートアクセスを経由するように設定されていないのだ。

LJ調査で、2012年より減ったネガティブ要素に「タイトルの少なさ」がある。2012年の49%から2016年は25%とほぼ半減している。しかし同じ質問で大学別の回答を見ると、大学院のある大学やプロフェッショナル・スクールでの電子書籍タイトル数への不満は2012年も2016年も33%で横ばいである。これは高度な専門書になるほど電子書籍化されていない状況を物語っている。その一方で、大

学院生たちがたくさんの本をスキャナーの横に積み上げ、必要な箇所を選んでスキャンしている姿を図書館でよく見かける。かれらは自分で集めた資料の PDF をノートパソコンやタブレットで読んでいるのだ。電子書籍の印刷制限やダウンロード制限に加えて、会社によって違うプラットフォームの煩雑さへの不満も、紙書籍の支持に関係していると思う。これは、電子書籍の全文検索能力の利用価値を知り、ほしいところだけをスキャンして読みたい学生の要望に答えられない電子書籍提供会社の問題である。

回答者のコメントに「電子で提供している同じ本の紙書籍を ILL でリクエストする学生がたくさんいる」という報告もある。電子書籍を購入した場合、紙書籍は基本的に購入しない方針の図書館が多いからである。「学生たちはディスカバリーで資料を探し、コンピュータで論文を書き、オンラインで課題を提出している。一日中コンピュータの画面を見て目を酷使しているのだから、その上教科書までスクリーンで読みたいと思わない」という意見もあった。また「どの機器を使って電子書籍を読んでいるか」という質問には、ノートパソコン 59% が圧倒的に多く、iPad などのタブレットを使っているという答えはわずか 4% だった。タブレットの方が電子書籍が読みやすいとは思っていないようだ。

電子書籍の利用者指向を今後も継続して調査することは重要だが、プラットフォームの多様化が広がっている現状では実態を把握するのは困難だと LJ は指摘している。そして 2016 年に紙書籍を指向しているジャンルでも、電子書籍の形態が今後も変わっていく可能性を視野にいれると、まだ電子書籍の成長の余地があることも示唆している。

## 2.5 教員対象の利用調査に見る電子資料への関心度

「Ithaka S+R 米国大学教員調査 2015」(以下 Ithaka S+R) は、2015 年 10 月 18 日から 12 月 18 日の 2 か月間に集めた大学教員たちの意見である。LJ ほど電子書籍の利用傾向を重点的に調査してはいないが、教員たちのデジタル・リサーチの動向、大学図書館に求める役割の変化を探っているのだから、教員の電子書籍に対する関心を知ることができる。

注記しておきたいのは、Ithaka S+R における医学部教員への図書館に関する利用調査はこの 2015 年が初めてであり、詳しくは後に触れるが、電子書籍と電子ジャーナルに対して医学部教員が異なる利用傾向を示していることだ。電子媒体では医学系タイトルが先行して多い現状で、興味深い報告といえよう。

Ithaka S+R は、MDR というマーケティング名簿会社が持つ米国大学教員の電子メール・リストから所属大学を 8 グループに分けて対象者を選んだ<sup>7)</sup>。そのグループは、人文学・社会科学・自然科学のみの 4 年制大学、より広い分野の学部を有する 4 年生の大学、修士課程(それぞれ小、中、大規模に分けた)を有する大学、博士課程を有する大学、研究に重点を置いた大学、高度な研究に重点を置いた大学という区分である。そして MRD リストの 116 万 6,542

名から、354,560 名の医学部以外の教員、68,958 名の医学部教員を抽出。利用調査への回答は、医学部以外の 8,815 名の教員、医学部の 388 名の教員から得た。Ithaka S+R 調査の医学部以外の教員の内訳は、自然科学 2,296 名、社会科学 3,764 名、人文学 2,617 名、日本学も含まれる地域研究が 138 名である<sup>7)</sup>。

## 2.6 教員の図書館サービス利用から見る電子書籍

特筆すべきは、電子書籍に限らず大学教員に対する「学術資料を探す場合、どこから始めるか」という質問に、図書館ウェブサイトとオンライン・カタログという回答が、2012 年頃から増加していることである。これはディカバリーの導入や図書館ウェブサイトの使いやすさの向上などに、図書館が投資をしてきた結果であると Ithaka S+R でも分析している。長い間、グーグルなどのサーチ・エンジンに水をあけられてきたが、私たち図書館員の利用者研究と投資がやっと成果につながってきたことは、とても喜ばしいことである。

Ithaka S+R のエグゼクティブ・サマリーでは、「(教員の利用傾向は) 研究書の出版形態に関する大きな変化は見られない。あえて言うならば、教員たちの電子媒体への優先傾向は 2012 年の調査時より上昇している」と述べている。しかし人文学、社会科学、自然科学、医学の研究分野別の教員たちへの「電子書籍と紙書籍のどちらが自分の研究と授業に役に立つか」という質問の回答を見ると、電子書籍の優先傾向は着実に上昇している。まず医学部の教員は 62% 対 25% で最も差をつけて電子媒体に軍配を挙げている。次は自然科学で 58% 対 30%、社会科学の教員たちも予想以上に電子書籍が役に立つと 57% が答えており、紙媒体を重視するのは 42% に留まっている。唯一紙媒体をより重要だと答えているのは人文学部の教員たちで 65%。しかし電子媒体の方が役に立つと答えた教員も 41% とかなり多い<sup>8)</sup>。

上記の通り、電子書籍に対するポジティブな意見は学生より教員に多いようだが、教員たちも電子書籍の将来が明るいものであると見ているわけではない。「5 年以内に電子書籍はさらに普及するので、図書館で紙書籍をいつまでも保存しておく必要はないと思うか」という質問に、自然科学と社会科学の教員たちでイエスと答えたのは 20% のみであった。医学部の教員でも 35% に留まっている。同じ質問を電子ジャーナルで聞いたときには、自然科学と社会科学の教員の 50% がイエスと答え、医学部の教員に至っては 60% 近くが「紙雑誌を捨てても構わない」と答えていたのだが<sup>9)</sup>。

ではなぜ電子書籍は電子ジャーナルのように使い勝手が良くないのか。スクリーンで読みづらいという問題は、電子ジャーナルでも同じだが、ジャーナルの論文はいくらでも印刷できるし、アクセス制限もない。対して電子書籍は印刷制限があり、無制限の契約をしておかない限り、同時アクセスは 1 ユーザーから 3 ユーザーに限られる。ピッツバーグ大学図書館の場合、参考図書は無制限のアクセスで

購入することが多いが、通常は教員が授業のリザーブにするためなどの理由でリクエストしない限り、1 ユーザー購入が基本である。また紙書籍の場合、貸出しは1 セメスター（教員と院生の場合）であり、他の誰かがリコールしない限り貸出し期間更新は半永久的である。それに対し、電子書籍の貸出期限はわずか2 週間に設定されているタイトルが多い。

図書館利用者の大多数を占める学生、特に学部生たちは、本であろうが雑誌であろうが、すでに紙媒体のものは読まない傾向にある。使うのはほとんど電子ジャーナルの論文だけである。どうしても本を使わなければならないときに、まだ紙書籍を好むのだ。と言うことは、電子ジャーナルのように電子書籍が使いやすくなれば、使われなくなっている学術書という資料の宝庫が、また使われ始めるのは明白である。図書館員として出版社やプラットフォームの提供会社に要望を伝え続けることが肝要である。

### 3. 電子書籍購入に関する図書館員の作業変化

ピッツバーグ大学図書館の電子書籍のタイトル数は1,368,110 冊で、紙書籍の所蔵は5,854,062 冊である(2015 年の調べ)<sup>10</sup>。電子書籍の購入には、見計らい購入と、サブジェクト・ライブラリアンによる選書、教員や学生からの要望（リクエスト制度）による単品購入（500 ドル以上の本は許可制、紙書籍も同じで1 タイトルが500 ドル以上の本は許可制）を並行し、そして DDA/PDA に設定した電子書籍タイトルも加えている。

インディアナ州のパデュー大学図書館が3 年間(2011-2014) の DDA/PDA タイトルをモニターして正価との差額で節約効果を調べ、さらにサブジェクト・ライブラリアンが選書した電子書籍との利用率を比較したレポートによると DDA/PDA によるメリットが証明されている。しかしながら同レポートでは、修士や博士課程の学生への資料提供は、サブジェクト・ライブラリアンによる選書と購入が堅実なサポートであること、サブジェクト・ライブラリアンが選書したタイトルを DDA/PDA 式で購入することで節約効果を高められると指摘している<sup>11</sup>。

#### 3.1 電子出版ビジネス再編成による予想外のシナリオ

それでは電子書籍の購入作業が、図書館員の仕事をどのように変えたかレポートしてみよう。資料購入のしくみは図書館の舞台裏であって、その事情によって利用者が求める資料を速やかに提供することが影響をうけてはならないのだが、EBSCO と ProQuest の電子出版ビジネス買収の影響は見逃せない。

##### 3.1.1 EBSCO が YBP を買収して GOBI の API を公開

2015 年春、書籍販売会社 Baker and Taylor が子会社 YBP (Yankee Book Peddler, Inc., ヤンキーと呼ばれている) を EBSCO へ売却した。ピッツバーグ大学図書館をはじめ多くの大学図書館が、ヤンキーのオンライン・オーダー・システム GOBI-3 を使って英語の紙書籍の見計らい購入と単品購入を行っている。EBSCO は GOBI-3 の API

(Application Programming Interface) を公開した。そして NetLibrary, Project MUSE, JSTOR, SAGE, ELSEVIER, GALE, Willy, De Gruyter, さらに大手の大学出版社の電子図書タイトルも GOBI-3 で発注できるようになった。使い慣れている GOBI-3 で電子書籍の見計らい購入と単品購入も行えるようになり、日常業務は簡単になったのだが、じつは GOBI-3 では購入できないタイトルもまだまだあり、利用者からの購入申請を受け取ったとき、そのタイトルの出版社が GOBI-3 にない会社であることがある。修士・博士課程の学生の要望は、そうしたタイトルが多い。そのさいは直接出版社に購入を申し込まなければならない。まず出版社がオファーしている電子書籍のタイプを調べる。ユーザー名とパスワードでアクセスする電子書籍は購入しない方針であるため、利用者には申し訳ないが、図書館向けの IP アクセスの電子書籍がないときは購入できないと伝える。もし紙書籍があればそちらを購入する。

##### 3.1.2 ProQuest が Ex Libris を買収した影響

ProQuest の Ex Libris 買収は2015 年12 月に行われた。Voyager, Primo, Summon など広く使われている図書館システムとディスカバリー・ツールは Ex Libris の商品である。ピッツバーグ大学図書館では図書館システムの古株 Voyager と Summon を使っている。Voyager は1990 年代に開発された後に Ex Libris が購入した製品だ。そろそろ Voyager から別の図書館システムに変更することが話題になってはいたが、購入、貸出、書誌情報を全て管理している図書館システムを入れ替える大仕事のため、なかなか腰が上がりなかつた。予算がかかるし、5 年計画の図書館改装に着手したところである。それが ProQuest の買収により、Voyager システムのアップデートは未定らしく、真剣な検討を迫られることになった。

#### 3.2 電子書籍モデルに対しコンソーシアムが働きかける

北米には公立・学術合わせて約3 万館の図書館があり、図書館をつなぐコンソーシアムが300 以上、図書館によっては複数のコンソーシアムに所属して資料購入や ILL で協力している<sup>12</sup>。電子ジャーナルの論文はドキュメント・デリバリー (DD) で他校の研究者とも共有できるのに、電子書籍は、契約によっては一章のみ DD 出来る場合もあるが、まだ丸ごと ILL できない。電子書籍の出版社との契約により ILL 不可とされているからだ。さらに紙書籍は OCLC データで所蔵館との貸借が管理できたが、電子書籍は OCLC データに所蔵館が全て登録していないから ILL に対応できないという事情もある。そのような出版社・アグリゲーター・書籍販売主導の電子書籍の販売形態について、図書館からの視点と提言を加えようというコンソーシアムの動きが活発化している。

##### 3.2.1 シャーロット・イニシアティブ

このプロジェクトが2015 年1 月から始まっている。これはノースカロライナ大学シャーロット校図書館の蔵書構築担当司書エリザベス・シラー氏が中心となり、メロン財団の助成金を得て、図書館員だけでなく情報学や IT の研

研究者を含めて 56 名のリサーチ・チームを結成、2017 年 4 月に成果を報告する予定で活動を続けている。その目標は未発達な電子書籍の購買、契約形態を研究することによって、DRM (Digital Rights Management, デジタル著作権管理) からの解放によりアクセスの内容制限や時間制限をなくし、図書館の大事な社会的役割である資料の収集と共有、そして未来への保存を電子書籍でも可能にしていく方法を探り提言することにある<sup>13)</sup>。

### 3.2.2 電子書籍 ILL を目指したオッカム・リーダー・プロジェクト

テキサス工科大学とハワイ大学マノア校、そして西海岸の大学図書館を中心としたコンソーシアム、GWLA (Greater Western Library Alliance) が共同で、2014 年に電子書籍の ILL を可能にするシステム、オッカム・リーダー (Occam's Reader) を使った 1 年間のパイロットプロジェクトを立ち上げた。

オッカム・リーダーとは、テキサス工科大学の ILL 司書だった (現在は同大の教授) ライアン・リツィ氏が中心となって開発したソフトで、OCLC の ILL システム、ILLiad に追加 (add-on) することによって、電子書籍を ILL 出来るようにしたものである。GWLA 事務局が Springer の協力を取り付け、メンバー 33 館が所蔵する Springer の電子書籍の ILL を試験的に始めた。プロジェクトでは電子書籍提供会社の利益を侵害しないように、ILL した電子書籍はイメージとしての PDF でやり取りし、検索やハイライト、ライブリックの機能はなく、印刷も出来ない仕組みだった。また貸出期間は 2 週間とした。パイロット・プロジェクトが終了した 2015 年には図書館界で様々な賞を受賞した。しかし本格施行には、参加図書館が購入している多様な電子書籍提供会社の合意を得なければならないこと、使いやすさの向上も図らなければならないといったハードルがあった。現在、GWLA とハワイ大学マノア校はこのプロジェクトから離れたが、テキサス工科大学がバージョン 2.0 を開発し、独自に運営して参加館を募っている<sup>14)</sup>。

## 4. 日本の電子書籍への要望

日本の電子書籍に対する要望をこの機会に遠慮なく書かせて頂く。フォーマットと内容への要望である。

2009 年に電子資料の購入に限定したファンドを頂いたので EBSCOhost NetLibrary から 80 タイトルの日本語電子書籍を購入した。1960 年代から 70 年代に出版されたかなり古いシリーズだが現代史資料 (みすず書房) を全巻購入した。すでに紙媒体で全巻所蔵しているが、全文検索機能が活用されるだろうと思ったのだ。キーワードでの全文検索はとても便利だ。左コラムに検索結果がでて、クリックひとつで掲載ページに跳んでくれる。しかし縦書きなので、いちいちスクロールしなければならず、読みづらい。同じ PDF でも中国語電子書籍は横書きが多く、この不便はない。縦書きのデジタルデータを横書きに変換することは出来ないものだろうか。また縦書きのままでも 2 段組みにしてもらえたら大分読みやすくなると思うのだが。そし

て EPUB で出版していただきたい。

2009 年の経験以来、横書きが出てくるか EPUB になるまで日本語電子書籍を買うことは控えていたのだが、2015 年に EBSCOhost が日本語電子書籍の DDA を始めたので導入してみた。英語電子書籍は DDA が盛んで、価格が紙書籍の 2, 3 倍でもスペースや管理の便利を考えて DDA が奨励されているのだ。約 6,000 タイトルの日本語電子書籍が DDA 可能だったが、日本の大学向けの教科書やとても古いものが多かったので 600 タイトルに絞って DDA を始めた。しかし 1 年間で利用者が購入したのはたったの 5 冊だった。

EBSCOhost NetLibrary の日本代理店は紀伊国屋書店である。丸善雄松堂も海外の教育機関向けに日本語電子書籍を提供しているが、DDA はまだなく、1 点ずつの購入になっている。2016 年 10 月には EBSCOhost NetLibrary が 9,766 タイトル<sup>14)</sup>、丸善雄松堂が 24,134 タイトル<sup>15)</sup>、両社とも毎月タイトルを追加している。丸善雄松堂の電子書籍は半数以上 (12,586 タイトル) が理工学・生命科学・医学・農学で残念ながら日本研究にはほとんど関係ない。残りの 11,557 タイトルは人文学・社会科学・総記だが、多くは日本の大学生向けの教科書的内容で、海外の日本研究にはほとんど向かない。

EBSCOhost NetLibrary の日本語電子書籍リストは、紀伊国屋書店サイトからダウンロードするエクセルファイルなので、検索したり分野で絞ったりできるウェブページの Maruzen eBook Library ようにタイトルを分析することが難しい。

私たち北米の日本研究司書は、毎年予算に合わせて 300 から 2,000 冊の紙書籍を購入している。日本研究者が必要とする書籍が沢山あるのだから、海外の需要も汲みあげて電子化して頂きたい。

## 5. あとがき

この度の執筆に際して、編集委員の方々のご尽力、および北米の同僚から数々の有益な提言を頂いたことにお礼申し上げます。取材過程で、大学図書館の電子書籍コレクションについて、国境を越えた情報共有と協力も可能かもしれない、という印象を強く受けた。

### 参考文献

- 1) Ebook Usage in U.S. Academic Libraries 2016. Library Journal. <http://lj.libraryjournal.com/downloads/2016academicebook-survey/> [downloaded 2016-10-1]
- 2) Wolff, C., Rod, A. and Schonfeld, R. Ithaca S+R US Faculty Survey 2015. <http://www.sr.ithaca.org/publications/ithaca-sr-us-faculty-survey-2015> [accessed 2016-10-1]
- 3) Appendix A. Profile of Respondents. Ebook Usage in U.S. Academic Libraries 2016. Library Journal. p.79-89. 前掲
- 4) Executive Summary. Ebook Usage in U.S. Academic Libraries 2016. Library Journal. p.3. 前掲
- 5) Figure 6. Which categories of ebooks does your library currently offer students and faculty? All academic

- libraries, 2016. Ebook Usage in U.S. Academic Libraries 2016. Library Journal. P.6. 前掲
- 6) Figure23. What hinders students/faculty from using your library s ebooks? Ebook Usage in U.S. Academic Libraries 2016. Library Journal. p.48
  - 7) MDR's College and University Faculty Email. <http://lists.schooldata.com/market;jsessionid=02AD0CBF163A8F01C43911EAFB0838DA?page=research/datacard&id=273297> [accessed 2016-10-2]
  - 8) Wolff, C., Rod, A. and Schonfeld, R. Appendix: Methodology. Ithaka S+R US Faculty Survey 2015. p.76-82. 前掲
  - 9) Wolff, C., Rod, A. and Schonfeld, R. Ithaka S+R US Faculty Survey 2015. p.11-12.前掲
  - 10) Fact Book. University of Pittsburgh. 2016 <http://ir.pitt.edu/wp-content/uploads/2016/09/Fact-Book-2016-3.pdf> [accessed 2016-10-8]
  - 11) Ward, Suzanne M. Use and Cost Analysis of E-Books: Patron-Driven Acquisitions Pan vs. Librarian-Selected Titles, Academic E-Books Publishers, Librarians, and Users 2016, pp.127-144
  - 12) American library directory access <http://www.americanlibrarydirectory.com> [accessed 2016-10-9]
  - 13) Carolina-Charlotte. Charlotte Initiative., J. Murry Atkins Library, University of North <http://guides.library.uncc.edu/charlotteinitiative> [accessed 2016-10-9]
  - 14) Occam's Reader <http://occamsreader.org/> [accessed 2016-10-1] この項はテキサス工科大学教授のライアン・リツイ氏、ハワイ大学マノア校 ILL 司書のナオミ・チョウ氏、GWLA 事務局のジョニ・ブレイク博士への電話インタビューによる。
  - 15) 和書全タイトルリスト (2016/09/28 更新), EBSCOhost NetLibrary eBook [http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/netlibrary/netlibrary\\_ebook.htm](http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/netlibrary/netlibrary_ebook.htm) [accessed 2016-10-10]
  - 16) Maruzen eBook Library <https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/Top/wicket:pageMapName/wicket-0> [accessed 2016-10-10] (「認証しない (ゲスト利用)」のボタンをクリックすると丸善の提供する電子書籍リストにアクセスできる)

**Special feature:** Current States of E-book. Current Trends of eBooks Services at Academic University Libraries in the United States of America. Hiroyuki Nagahashi Good, Kazuyo Good (University Library System, University of Pittsburgh, 207H Hillman Library 3960 Forbes Ave., Pittsburgh, PA 15260)

**Abstract:** The expected role of university libraries is changing from developing collections to increasing digital resources as well as offering more study space to support undergraduate students. Most of us have expected the increase of ebooks to facilitate the transformation and improve user supports. However, the environment of ebook services in recent years seems different from our expectation ; students still prefer printed books, ebooks are still very difficult to read, and the ebook budget is decreasing. This paper examines two recent national surveys to clarify challenges to ebook services. This will be followed by a discussion of the efforts to tackle the challenges at the University of Pittsburgh Library. Last but not the least, this paper also offers some suggestions for the Japanese ebook industry.

**Keywords:** Ebooks services / ebook usage / ebooks / digital resources / Unites States / University libraries / user survey / students survey / faculty survey / Ithaka S+R / Library journal